

# タッピングタッチが唾液中オキシトシン量の変化に及ぼす効果 その5 一信頼感との関連一

〇大浦真一1·福井義一2·中川一郎3

(1東海学院大学人間関係学部・2甲南大学文学部・3大阪経済大学人間科学部)

# 問題と目的

## タッピングタッチ (TT) とは

・ゆっくり, やさしく, ていねいに左右交互にタッチすること を基本としたホリスティック(統合的な)ケアの技法(中川, 2017) →質問紙を用いた調査では、TTをするのみ(ケア群) or 受けるのみ (被ケア群) でも,ペアで行う場合とほぼ同等の効果 (福井, 2016)

TTは,心理・身体だけでなく<mark>対人関係</mark>にも効果を示す

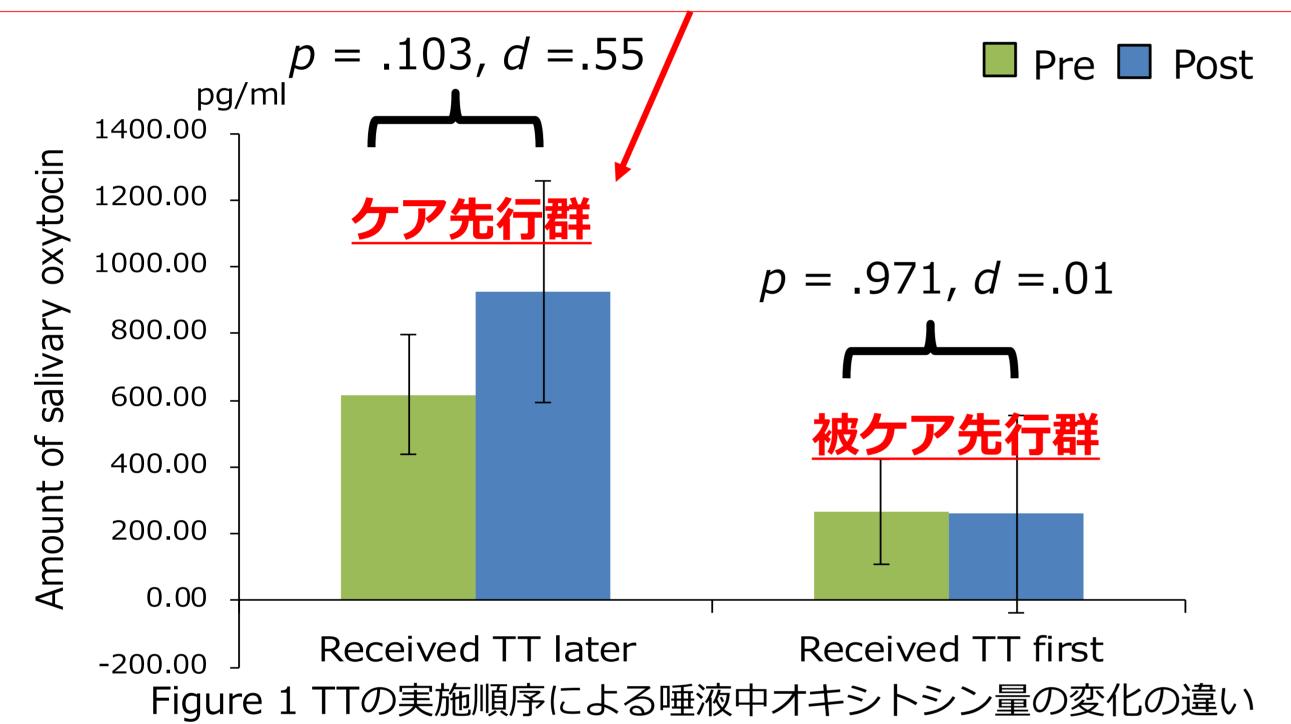
背景に共感性の高まり (Fukui et al., 2017, 2018)



背景にある生理的メカニズム解明に ためにオキシトシン量の変化を測定

## Fukui et al. (2019)

TTを先に提供してから受けた群(<mark>ケア先行群</mark>)の方が,逆の順序で実施 した群(<mark>被ケア先行群</mark>)よりもTT後に唾液中オキシトシンが増加



## オキシトシンには他者への信頼感を調節する働きがある

(Bartz et al., 2010; Domes et al., 2007; Kosfeld et al., 2005)

### 目的

TT実施時のTTのパートナーへの信頼感の変化量を ケア先行群と被ケア先行群で比較した

### 仮説

ケア先行群の方が被ケア先行群よりTTのパートナー への信頼感の変化量が大きい

### 調查対象者

- ・成人23名が実験に参加したが、データに不備のなかった18名(男性6名,女性12名) を分析対象とした→平均年齢=45.50歳(*SD*=12.23)
  - ※データは, Fukui et al. (2019), 福井他(2019), Nakagawa et al. (2019), 中川他(2019), Oura et al. (2019)と重複

#### 尺度

パートナーへの信頼感尺度 (福井, 2016) →パートナーへの信頼感得点

#### 実験の流れ

質問紙 #1\*\*1 **唾液採取** #1<sup>※2</sup>





質問紙 #2\*1 唾液採取 #2<sup>※2</sup>

## 分析 (対応のないt検定) 要因

TTの実施順序 →ケア先行 vs 被ケア先行

#### 従属変数

パートナーの信頼感の変化量  $\rightarrow$ #2-#1

- ※1 本研究には用いていない尺度も含まれていた
- ※2 オキシトシンの定量のために採取したが、本研究で はこのデータは用いなかった
- ※3 TTの役割を交代する時に, 唾液採取を行った

TTは開発者である第3著者を中心に、TT協会の認定インス トラクターである第1,2著者によって指導された

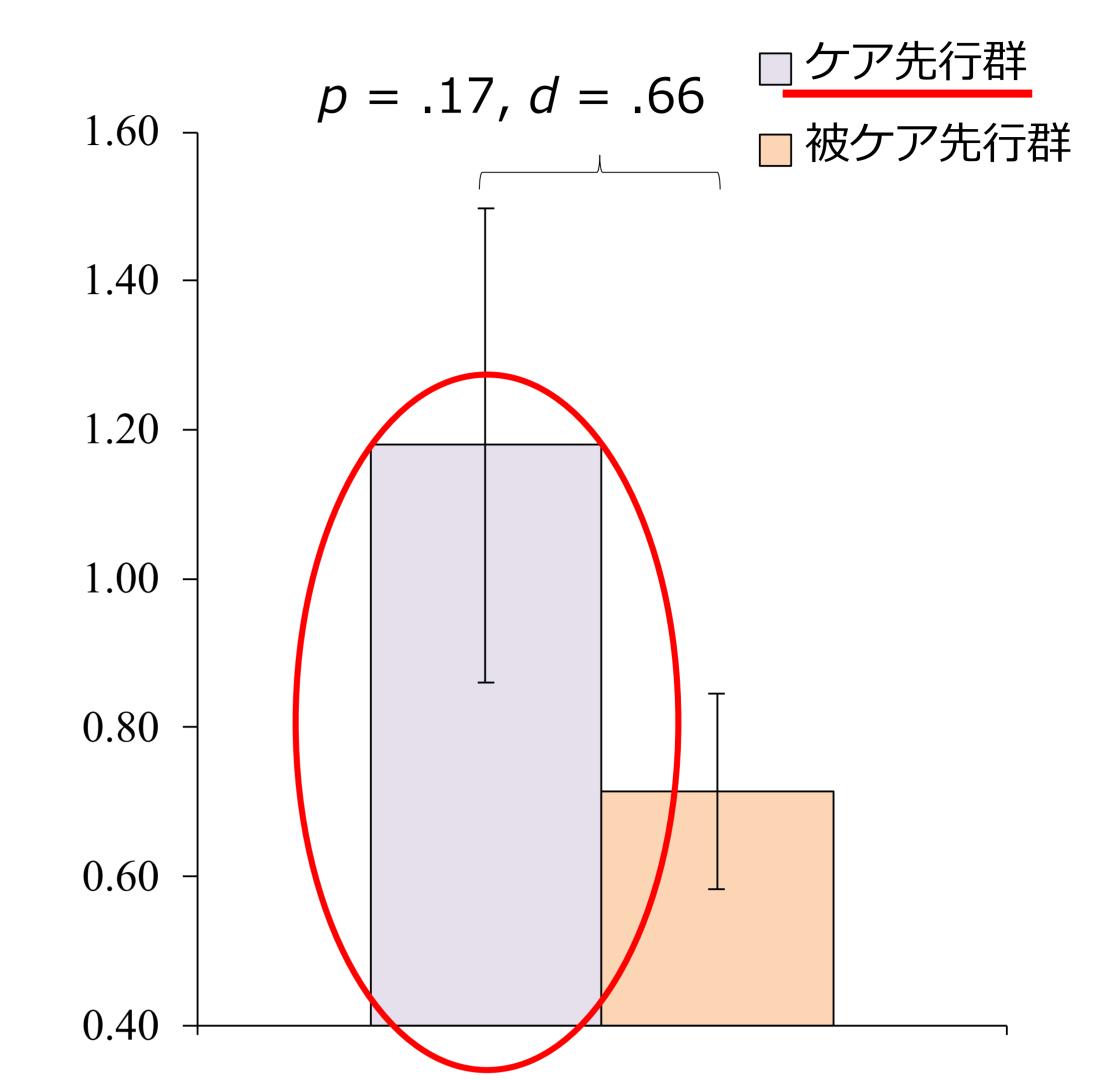


Figure 2 TTの実施順序によるパートナーへの信頼感の変化量の違い



ケア先行群の方が被ケア先行群よりもパートナー への信頼感の変化量は大きかった

有意な差は見られなかったものの,効果量(d)は中程度以上<sup>※</sup>であった ※水本他(2008)を参考



この群はTT後にオキシトシンが増加していた群 であった(「問題と目的」のFukui et al. (2019)を参照)

本研究の結果は仮説を支持するものであった



唾液中オキシトシンが増加した群(ケア先行群)の方が, パートナーへの信頼感の変化量が大きかった

→TTによって, 人間関係が良好になる理由について 神経生理学の観点から一つの証左が得られた

# しかし, なぜ被ケア群では変化が小さいのか?

理由1:サンプルサイズが小さい

本研究ではサンプルサイズが18であった オキシトシン分泌量は個人差が大きいため, 追試が必要

理由2:TTの順序が重要?

先にタッチをすることが何か重要な意味を持つのか? しかし, それを裏付けるには, さらなる研究が必要

# 結論

TTによる唾液中オキシトシン量の 増加と,パートナーへの信頼感の 高まりが関連する可能性が示唆 された